

# 月刊しばうら

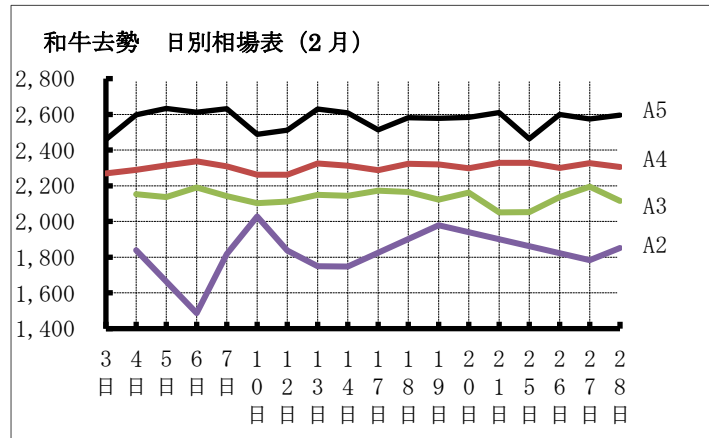
2025年 3月号

## 牛肉営業部

<2月の相場動向>

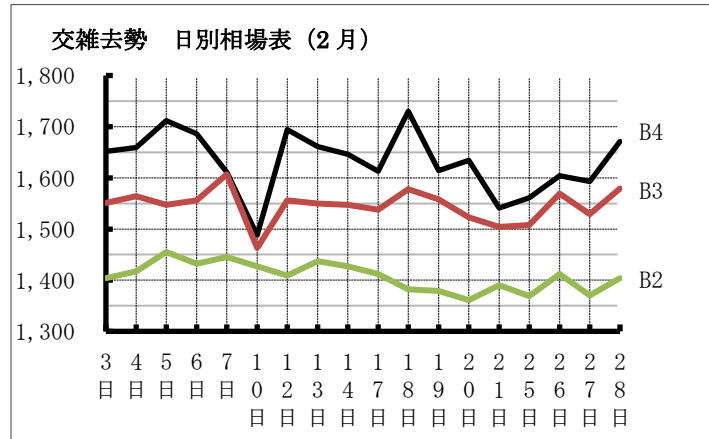
2月は1年の中でも牛肉需要が低迷する月のひとつであるが、今年は気温の低い日が多く、低価格のスライス材を中心に量販店の引き合いが強かったため、和牛は前月を上回る価格となった。

和牛相場好転の材料としては、補正予算で措置された和牛肉販売促進等支援緊急対策事業や、年末から高騰している野菜・魚などに比べて、和牛は値頃感があることから、量販店で積極的な販促に取り組みやすい和牛4等級や経産和牛に需要が集中したことが考えられる。外食産業に関しては年末年始の反動と、2月には特段イベントが無いことから低調に推移した。



和牛去勢 (月平均)

	加重平均	前年同月比	前月比
A5	2,585円	-18円 99.3%	+65円 102.6%
A4	2,310円	+32円 101.4%	+55円 102.4%
A3	2,145円	+58円 102.8%	+61円 102.9%
A2	1,866円	-67円 96.5%	+61円 103.4%



交雑去勢 (月平均)

	加重平均	前年同月比	前月比
B4	1,633円	-53円 96.9%	-29円 98.3%
B3	1,553円	-3円 99.8%	+8円 100.5%
B2	1,404円	-27円 98.1%	-14円 99.0%

乳牛去勢 (月平均)

	加重平均	前年同月比	前月比
B3	-	-	-
B2	1,129円	-	+12円 101.1%

<3月の牛肉輸入量予測>

財務省が発表した輸入通関実績によると、1月の輸入量は前年同月比24.7%減の3万2,576tで、うちチルドは21.2%減の1万3,373tと下回った。同じくフローズンは前年同月比27.0%減の1万9,203tと前年同月を大幅に下回った。

農畜産業振興機構によると2月の牛肉輸入数量は、前年同月比0.3%増の3万1,100t(チルド11.2%増・フローズン7.0%減)で、3月のチルド・フローズンは現地価格の高止まりから、主要国を含む殆どの輸入先からの輸入量の減少が見込まれ、全体で19.2%減の3万1,000t(内チルド20.7%減・フローズン17.8%減)と大幅に前年を下回ると予測している。

輸入牛肉通関量	1月	前年同月	前年同月比
チルド	豪州	6,198	8,143 76.1%
	米国	5,761	7,497 76.8%
	その他	1,414	1,327 106.5%
	合計	13,373	16,967 78.8%
フローズン	豪州	8,893	12,695 70.1%
	米国	6,901	7,945 86.9%
	その他	3,409	5,651 60.3%
	合計	19,203	26,291 73.0%

出典：食肉速報 単位：t

<3月の全国出荷頭数予測>

農畜産業振興機構による3月の全国出荷予測頭数は、全体で前年比96.6%の8万6,400頭で、品種別にみると和牛は2.7%減の4万600頭、交雑種は3.0%増の2万1,600頭、乳用種は7.4%減の2万4,200頭と予測している。

東京食肉市場の3月のと畜頭数は7,450頭を予定しています。

<3月の牛枝肉相場見通し>

3月は歓送迎会や卒業式、春休みの行楽や花見などで、外食産業を中心に、交雑牛ロースや和牛ヒレなどの需要好転が期待される。また、高騰している米・野菜価格に落ち着きが見られれば、低調な消費意欲の回復も見えてくる。

量販店に関しては、鍋用商材からの棚替えのシーズンにあたるため、例年、売れ行きが停滞する時期であるが、和牛肉販売促進等支援緊急対策事業を活用したフェア等を予定している店舗もあり、和牛は底値の安定した相場になると見込んでいる。

一方で交雑牛は、ゴールデンウィークに相場のピークがくると見られることから、本格的な価格上昇は4月に入ってからと予想する。

和牛去勢	価格予測	交雑去勢	価格予測
A5	2,450~2,700	B4	1,600~1,750
A4	2,250~2,450	B3	1,500~1,600
A3	2,050~2,250	B2	1,400~1,500
A2	1,800~2,050		
乳牛去勢			
B3	1,200~1,300		
B2	1,100~1,200		

## 豚肉営業部

1月の全国と畜頭数は、140万4,118頭(前年同月比0.7%減)と前年を下回った。また、1月の豚肉通関数量は8万562t(前年同月比11.7%増)と前年を上回り、前月比では5.2%の増加となった。内訳はチルドが3万2,069t(7.5%減)、フローズンは4万8,493t(29.5%増)増加となった。

2023-2024年の需給量と推定期末在庫						
月	供給量		推定期末在庫		推定出回り量	
	生産量	輸入量	国産物	輸入物	国産物	輸入物
1	80,283	72,051	20,836	173,172	80,748	68,999
2	77,558	64,527	21,439	165,686	76,853	72,013
3	77,333	74,351	23,117	166,119	75,518	73,918
4	78,976	98,780	22,670	174,059	79,317	90,840
5	76,183	94,087	24,239	189,925	74,520	78,221
6	66,310	81,660	24,750	193,156	65,692	78,429
7	71,679	86,155	23,227	195,529	73,101	83,782
8	65,651	84,078	22,108	200,290	66,675	79,317
9	68,773	78,666	21,580	201,197	69,219	77,759
10	7,9625	86,742	21,384	201,922	79,699	86,017
11	78,361	78,216	21,389	194,797	78,249	85,341
12	80,661	76,518	22,458	185,736	79,425	85,579
1	79,908	80,505	23,536	190,508	78,746	75,733
比	100%	112%	113%	110%	98%	110%

出典：農畜産業振興機構 比：最終月の前年同期比 単位：t

1月 豚肉通関実績					
国名	冷蔵	前年比	国名	冷凍	前年比
アメリカ	12,432	82.2%	デンマーク	3,776	109.9%
カナダ	16,637	101.5%	スペイン	15,804	130.5%
メキシコ	2,991	94.7%	メキシコ	5,048	101.7%
			アメリカ	4,940	123.6%
			カナダ	3,160	102.0%
合計	32,069	92.5%		48,493	129.5%

単位：t

<2月の豚取引の推移>

	全国と畜頭数	上物価格	中物価格	上場頭数
3日	67,100	623	601	1,044
4日	70,000	631	600	1,016
5日	63,800	623	602	904
6日	65,500	638	618	955
7日	66,600	634	617	1,000
10日	70,200	629	608	986
平均	67,200/日			984/日

全国的に厳しい寒波が襲来し、一部で大雪による出荷や物流への影響もみられた。枝肉相場は上物600円台で持ち合い、底堅い展開で推移した。

	全国と畜頭数	上物価格	中物価格	上場頭数
12日	73,800	622	603	1,087
13日	70,600	614	594	1,129
14日	66,600	615	597	1,105
17日	68,400	613	579	1,068
18日	69,800	634	599	985
19日	67,900	606	585	921
平均	69,517/日			1,049/日

出荷頭数は7万頭を超える日もあり順調だったが、東京では枝肉重量が大きく上物率の低下が目立った。不需要期にあることから相場は弱含みの展開を予想していたが、寒さによる鍋物需要や受験シーズンによって600円台で持ち合う高値となった。

	全国と畜頭数	上物価格	中物価格	上場頭数
20日	68,600	619	594	991
21日	68,300	627	612	1,055
25日	74,700	601	573	1,014
26日	70,700	616	587	1,039
27日	70,000	602	571	1,078
28日	68,400	608	583	1,164
平均	70,117/日			1,057/日

3連休に向けた手当てに加え輸入物の入荷状況に乱れがあったことも重なり相場は高値で推移した。

<3月の豚枝肉相場見通し>

農林水産省による令和7年3月の肉豚出荷予測では145万7,000頭(前年比106.3%)と予測している。当市場の3月集荷予定せり頭数は1万8,500頭、1日あたりでは約925頭を見込んでいます。

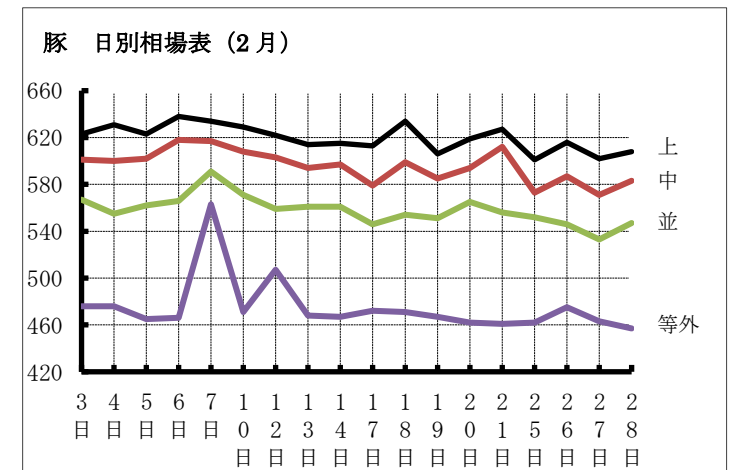
農畜産業振興機構によると3月分の豚肉輸入見込数量は、総量で7万5,600t(同101.7%)、内訳は冷蔵輸入量が3万2,400t(同95.3%)、冷凍輸入量は4万3,200t(同107.1%)と予測。

冷蔵品輸入量は、前年同月のメキシコ産輸入量が多かったことなどから、前年同月をやや下回ると予測する。同じく3ヵ月平均では、前年同期をやや下回ると予測する。

冷凍品輸入量は価格優位性によるブラジル産輸入量の増加が見込まれることや、紅海周辺的情勢悪化による物流の混乱などにより前年2月の欧州産輸入量が少なかったため、かなりの程度、前年同月を上回ると予測する。また3ヵ月平均でも前年同期を大幅に上回ると予測する。

気象庁の予報によると3月は平年よりも気温が高いと予想されており、出荷頭数は順調に増えることが見込まれる。末端需要は消費者の生活防衛意識が依然として強いことから、今後も豚肉需要はスソ物やひき材中心に底堅く推移すると予想される。国産凍結品もスソ物を中心に堅調な引き合いが見込まれているが、相場高が続いていた影響で各業者の在庫量が少なく、凍結玉を確保する動きもあるため、相場の下支え要因となることが考えられる。下旬には小中学校が春休みに入るため、相場に一服感が出そうだが、春の行楽シーズンに向けてバラやスペアリブ等の焼肉商材の動きにも期待ができそう。

以上のことから当市場の上物平均価格は620円前後、中物平均価格600円前後の展開と予測する。



東京都港区港南2-7-19

東京食肉市場株式会社

TEL:03-3740-3111 FAX:03-3472-0127